

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

通信教育部での学び、実習を振り返って ～たくさんのありがとうを込めて～

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 堀内 美香

はじめに

私は現在、介護予防施設で勤務しております。私が、社会福祉援助技術実習先として大学の関連施設である特別養護老人ホームを希望したのは、今後も高齢者分野で活動していきたいこと、また、大学で学んだ様々な理論と実際の福祉現場での実践を融合させることで、理解を深めたいとの思いが強かったからでした。自宅は県外で遠方であったため、仙台市内にウィークリーマンションを借り、24日間の実習に臨みました。

実習を振り返って

実習に臨むにあたり、まず何を学びたいのかをしっかりと実習計画書に盛り込むことが重要であると思います。自分の学びたい事柄をしっかりと考え、計画書に反映させ、それを実習先とすり合わせていくことで、計画書の充実が図れると思います。そして、実習計画書で設定した課題についてだけでなく、実習先施設に関連する諸事項を、実習が始まる前に改めて自己学習しておくことで、実習期間中の理解度も深まります。事前学習は時間を見つけて、ぜひ実施してみてください。

実習期間中は、特に心に留めていたことがいくつかあります。まず、「勉強させていただくという気持ちを忘れない」ということです。レジデンシャル・ソーシャルワーク実習は、生活の場に招き入れてくださる利用者様や、多忙を極める職員の方々が、未熟な実習生を受け入れてくださることで可能になっています。そのため、実習先施設の方々のご協力に対して

は、後に自分が福祉の専門職として社会に還元していく立場になることも考え、スーパーバイザーとしての役割をしっかりと自覚し、感謝の念を忘れず、誠実に実習をさせていただくことが大切だと考えました。特に利用者様に対しては、利用者様の不利益になることのないよう、最大限に注意をするよう心がけました。

次に、実習先での業務実践においては、「この業務は社会福祉士の価値、倫理、知識、技術がどのように反映されているのかを考え、振り返りを行うこと」を意識しました。そして様々な業務を実践させていただく際、やみくもに業務に当たることの無いよう、常に専門職意識を持ち、1つ1つについて自分なりに考察してみることに努めました。そうした上で、指導者の方や各専門職の方々へ質問をしたり、帰宅後に教科書等を読み返すと、各種業務についての理解をいっそう深めることができたと感じました。また、質問や調べることで、考察することがすぐにできない場合が多いため、小さなメモ帳を携帯して、どんなことでも書きとめておくようにしました。このメモが、実習記録の記入にも非常に役立ち、実習初日には5時間程かかった記入が、実習終盤には1時間もかからずに書き上げることができるようになりました。

私がお世話になった実習先は、各職員の方々の専門職意識が非常に高く、利用者主体の理念を随所に感じ、その実践を体感することができました。援助者の意識の高さと日々の実践が、利用者の権利擁護に繋がること、他職種や地域との連携も円滑に図りやすいことなど、本当に多くのことを学びました。この貴重な経験を、現在の勤務先でも活かそうと努力しています。実習先によって、実習形態が異なると思いますが、どの実習先に行かれても、これまでの人生観が変わるくらいの経験と学びを得ることができるはずです。帰校指導の際に、他の実習生とそれぞれの実習経過についてディスカッションする機会がありますので、各人の体験談を聞き、先生からの助言を受けながら、自分の実習に活かしてください。

実習は「積極的に行動する」ことで、充実度が違ってくると思います。どんどん質問し、調べ、たくさん考えることができる機会です。皆さんの実習も、充実したものになるようお祈りいたします。

通信教育部での学び

通信教育部での2年間は、レポートを書く時間がなかなか取れず、何度か卒業を諦めそうになりました。そんな時、スクーリングや演習で知り合った学友が、いつも支えとなってくれました。時には電話で話をし、時にはメールやSNSで情報交換をし、また時にはグラスを傾けながら(笑)、互いに叱咤激励したことで、卒業の日を迎えることができたと感じています。職種や年代も異なる、心から信頼できる学友を持たたことは、私にとって本当に大きな財産となりました。

また、諸先生方の素晴らしい講義も忘れることはできません。教科書だけでは得ることのできない数々の金言を授けていただき、人生における指針となる素晴らしい学びの時間を過ごさせていただきました。皆さんの中には、なかなかスクーリングに参加できない方もいらっしゃるかと思いますが、講義内容はもちろん、学友作りのためにも、ぜひスクーリングへの参加をお勧めいたします。

さらに、在学中は様々な不安や疑問が生じると思います。そんな時は、通信教育部事務局への電話・メールでの問い合わせや、職員の方に直接質問をしに行ってみてください。熱心にお話を聞いてくださいますので、不安が解消され、安心して学習することができるようになると思います。

東北福祉大の卒業生として

東北福祉大は、懸命に力を尽くせばそれに応えてくれる、非常に良い環

境の学舎であったと感じます。この大学で学ぶことができたことは、本当に幸運でした。きっと、皆さんも修了証書を手にした時、私と同じ思いを抱かれると思います。大変なこともあるかと思いますが、最後まで諦めずにごがんばってください。そして、東北福祉大の関係者である私達は、生涯に渡って学びを続け、自己研鑽をし、社会の一助となることができるよう、一緒に努力していきましょう！

最後になりましたが、共に学び苦勞を分かち合った学友達、大学の諸先生方、職員の皆様、そして友人、職場の同僚、家族…、この充実した2年間の学生生活を支えてくれた全ての方へ、心から感謝の意を送ります。本当にありがとうございました。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートよりスクーリングの講義の感想を抜粋いたしました。

●臨床心理学

- ・相談業務の仕事の中で、利用者の家族状況を調査する上で、どのようにして話したくない部分を聞き出すのか、今回の面接技法で学ぶことができました。また、子どもの不登校についても自分の子育ての中で何度か同じようなことがあったことを思い出し、子育てをしている時期に講義で得たような知識があればよかったですと感じました。「学校へ行ったから解決ではない」という言葉が印象深かったです。
- ・対人援助職が知識・技術を学習し、実践することは対クライアントだけでなく、「人を理解すること」につながる。最後のコマで「自分の内なる悪」を認識できるかどうかについて、「悪」を持つことがいけないのではなく、「悪」とうまく付き合うことが鍵であること、難しいことだが大切な概念であることを学んだ。とても考えさせられた。
- ・心理アセスメントも、心理療法も、社会福祉における対人援助についても、クライアントとのラポール形成が何よりも大切であることを学びました。

●教育心理学

- ・相手の学びを引き出す時には、その前に相手をよく知り、どのようなヒントやきっかけを使えば、その学習が進むのかを段階を踏んで提供していく必要があると思いました。いつまでも学習していく姿勢を相手に伝えることができるようなあの手この手を、自分のなかにたくさん準備(学習)しないとダメだと、今後の行動の動機づけとなりました。
- ・講義のなかで紹介された「There is always another way!」。この言葉が心に残りました。子育ても職場もない私ですが、しっかりこの言葉を胸に、日々の生活を大切に生きていきたいと思います。
- ・「人は人の社会の中で人間になっていく」ということ。幼稚園教諭時代、発達障害を持つ幼児を支援していく中で、障害をもっていようがなかるうが幼児一人ひとりに合った支援を探していくことが大切だということを実感したことを、今回講義で再認識することができました。人間が感じる生活のしにくさを改善し、よりよい生活を送れるよう支援していくことが、人間にしかできない技であることに改めて気づかされました。

●心理アセスメント

- ・異常を異常として見るのではなく、異常を正常として捉える新しい視点を学び、考えさせられました。異常を正常として見ることができれば、いじめも減るかもしれないと感じます。